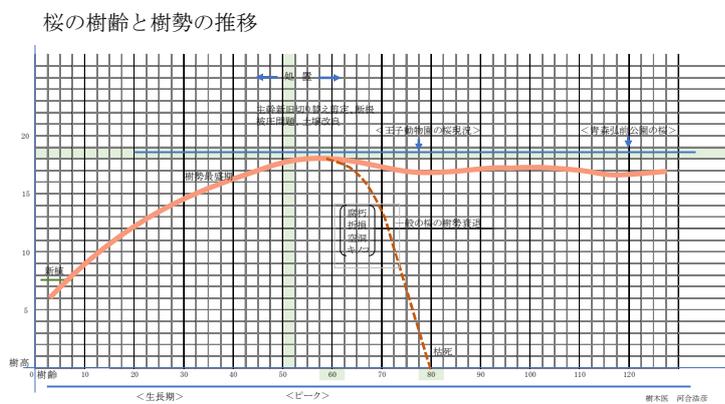


神河町のサクラ

“今後20～50年・100年を越えて”

1. 桜(ソメイヨシノ)は一般的には接木されてから50～60年で最盛期を迎えて、その後年毎に衰退し枯死に至ると言われている。この頂点にさしかかる時期に、今後20～50年、さらに100年先を見据えて的確な対策を講じれば、樹勢・樹形・景観を維持したままの状態、延命、樹勢を保つことが可能と考えられている。青森県弘前公園には100年を越えているサクラが数百本生育している日本一長寿の桜は130年以上になって、現在も生育旺盛である

日本一長寿の桜(弘前公園)



2. 神河町の桜・各地の桜の名所
 - (1) 神河町の桜…… 39集落の自慢の“さくら”パンフレットより
 - (2) 各地の桜の名所…… 日本花の会 心をつなぐ名所(一部)パンフレットより
いずれも桜の最盛期にあたる

3. 阪神間各地の桜の20年前(1999年)と現状

- | | |
|--------------------|----------|
| (1) 摩耶ケーブル下の桜のトンネル | (神戸市灘区) |
| (2) 神戸市立王子動物園の桜 | (〃) |
| (3) 妙法寺川公園の桜 | (神戸市須磨区) |
| (4) 須磨浦公園の桜 | (〃) |
| (5) 明石公園の桜 | (明石市) |
| (6) 日岡山公園の桜 | (加古川市) |
| (7) 姫路城の桜 | (姫路市) |

※ 20年前の写真:神戸新聞総合出版センター「ひょうごの桜」より

4. 樹勢最盛期から下降線に至る時点での対応(案)

神河町あげての取り組み“桜を守る会(仮称)”を立ち上げる(案)

町内の植木職・造園職・関係職員・地区自治会委員等の参加をお願いして、勉強会・研修会の場を設けて、技術や知識・意見などで得られた事柄を共有する。講師は依頼があればNPO法人兵庫県樹木医会会員、桜ボランティア・緑のサポーター等が担当する(年5～6回、2～3時間/回、野外実習を含む)

5. 勉強会・研究会の課題

1) 並列植栽の弊害の解消

間伐剪定又は移植・撤去（追い掘り工法・根株移植）

2) 樹木の剪定の基本・枯枝の切除

3) 主幹新旧切り替え剪定法

4) 不定根誘導法

5) テングス病枝の切除

6) コスカシバ駆除

7) 被圧対策

8) 深植対策

9) 根系切断の許容範囲